[事案 2019-240] 契約無効請求

・令和2年7月8日 裁定打切り

<事案の概要>

65歳以降は保険料を支払う必要はないものと誤解して契約したこと等を理由に、契約変更の無効等を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成2年5月に契約した定期保険特約付終身保険の疾病特約および災害入院特約について、平成23年4月に医療保険に契約変更したが、65歳以降の保険料は支払わないと募集人に伝えていたにもかかわらず、保険料払込期間が終身となっていたので、契約変更を無効とし、契約変更により過剰に支払った保険料を返金してほしい。

<保険会社の主張>

以下の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1)募集人は、本契約の保険料払込期間が終身であることが明記されたパンフレット、保障設計書等の資料を用い、複数回にわたり説明している。
- (2)契約成立後も、申立人には毎年レポートを送付しているが、当該レポートには本契約の保険料は終身払であることが記載されている。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、主張の内容等を把握するため、申立人に対して事情聴取の案内をしたが、申立人の協力が得られなかった。

2. 裁定結果

上記手続の結果、本件の審理においては申立人に対する事情聴取が必要と判断したため、電話および書面にて事情聴取の案内を行い、回答がない場合には手続きを打ち切る可能性がある旨通知をしたものの、何ら回答が得られなかったため、事情聴取への協力を得られないと判断して、裁定手続を打ち切ることにした。